



市中央図書館が全国表彰

佐渡市教育長

渡 邊 剛 忠

先日、朝のテレビニュースで大学生のレポートが取り上げられていた。他人の既存の文章をコピーしてレポート用紙に添付して提出する学生が増えており、よく考えて作成したレポートになっていないという。ニュースを聞きながら、「考える」ことが大切とするPISA型学力のことや、「考える」習慣を身に付けるにはどうしたらよいか、等々思いをめぐらせていた。

今年の4月、市中央図書館が子どもの読書活動の推進に功績があったとして、文部科学大臣賞を受けた。子どもたちの読書意欲を高めるだけでなく、島内各地で活躍されている読み聞かせのボランティアの皆さんにお願いして「佐渡子どもと絵本をつなぐ連絡会」を発足させた。そのボランティアの皆さんから、小学校で、朝学習や昼休み等を利用して読み聞かせ活動をお願いしている。このほかに、絵本作家を招いてイベントを開催したり、紙芝居のボランティア等もお願いしたりしており、そうした活動が評価された。

「子ども読書活動の推進に関する法律」(平成13年)の基本理念にも、「読書活動は言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で極めて重要」とある。

市中央図書館では昨年度、「佐渡市子ども読書活動推進計画」を策定した。これからの社会を担う子どもたちが読書活動により、知識や情報を得ながら豊かな想像力や知的好奇心や探求心、思考力や判断力、表現力など人格形成や生きる上で必要な能力や資質を、読書習慣によって育みたいとする推進計画・活動にさらに注目したい。

20年度 佐渡市学校教育の重点

佐渡総合教育センター

所長 小林 祐 玄

『佐渡市学校教育基本構想』の考え方を基に、学校教育の基本目標を「**確かな学力を身に付け 夢と誇りをもって 自立する人づくり**」とします。

そして、次の4点を重点とし、具体的施策を実施します。

意欲をもち、確かな学力を付ける教育の充実

郷土を愛し、夢と誇りをもつ教育の充実
生きがいを見付け、自立を目指す教育の充実

学校教育の基盤整備と充実

子どもたちが自信と意欲をもって学び、夢と誇りをもち、魅力ある学校を実現することが大切です。そのために、各学校は教育課題を明確にし、教育活動の見直しと改善を図るとともに、子どもたちが落ち着いた態度で学習し、礼儀正しい学校生活を送ることが必要です。

また、各学校が開かれた教育活動を展開し、保護者や地域の人々の理解と協力に支えられた信頼される学校にしていくことも必要です。そのためには、校長会や教育研究会等の関係機関と連携して、学力向上のための授業改善や家庭学習の定着と意識改善、いじめ根絶と不登校の解消など学校教育を支える基盤の充実と、中長期的な課題である適正規模を目指した学校統合を推進し、必要となる施設・設備の改善と安心・安全な学校環境の整備に取り組んでいきます。



教員評価の実施年度にあたって

管理主事 児玉勝巳

教員評価の実施にあたり、各校では実情に応じて創意工夫しながら取組を進めていることと思います。

実施年度とはいえ、教員評価制度は緒についたばかりであり、実施されていく中で徐々に成熟していくものと考えています。ただ、この制度をネガティブに受け止めると、教員の資質能力向上や学校の活性化のために機能せず、煩わしいものとなります。

大切にしなければならないことの一つは、評価者と被評価者間のコミュニケーションです。

例えば授業参観で、「今日の授業の と、あなたの掲げた目標との関連は?」とか「A さんの学力実態は?」などと校長先生が質問します。これに対し、授業者が「目標達成のための第1ステップです。」とか「A さんを ができるレベルにしたいのです。」と、自分の実践をきちんと説明できたら、素晴らしいことです。

また、「教頭先生、 で何かよい方法はありますか。」に、「それには、 を参考に・。」というようなやりとりが自然に行われている学校は、おそらく教育の質も高い学校です。

私事ですが、昨年度、目標の進捗状況や達成状況を話し合う面談での資料が、自己申告シートのみで、評価者と被評価者間に溝があることを感じ、反省させられました。この溝を埋めることができる方法の一つがコミュニケーション記録の蓄積です。

今、目の前にいる子どもを“何とかしなければ”という学校リーダーの思いが教員に伝わり、目標達成のためのポジティブで質の高いコミュニケーションが図られれば、必ず教員の資質能力の向上につながり、学校も活性化していきます。

コミュニケーションは、実績評価のみならず、能力・意欲評価にも役立つ、お互いの信頼をつなぐ大切なパイプだと思います。

ネット犯罪から子どもを守る

「学校裏サイト」「ブログ」「プロフ」「インターネットプリクラ」等の言葉を、耳にしたことがあるでしょうか。

インターネットの世界では子どもに有害な情報が、上記のようなコンテンツの中に溢れています。また、携帯電話はもはや人と話をする道具ではありません。インターネットの端末が付いた、子どもにとっては最高のオモチャのようになっています。

しかも、携帯電話を買い与える親に、犯罪の温床となる危険性の認識がなく、子どもが携帯電話で何をしているかも分からないというのが現状です。企業も子どもが喜びそうな新製品を、次から次へと売り出してきました。

ネット犯罪から子どもを守る責任は保護者にあると思いますが、インターネット全盛時代の学校での役割は何でしょうか。

「小4のネット殺人予告」の報道は、ネット犯罪の低年齢化を暗示しています。(児玉)



今年度の下越教育事務所佐渡市担当指導主事は、次の2名です。佐渡市教育委員会学校教育課に駐在し、県の業務と合わせ、佐渡総合教育センター業務と生徒指導業務に当たっています。

下越教育事務所学校支援第1課

指導主事 原 功 治
(新) 指導主事 本 間 健 人
(佐渡市立内海府小学校より)

学校教育課の広報紙「きょういく・さど」を昨年度に引き続き発行します。年間5回発行予定です。限られた紙面ですが、いろいろな角度から教育情報を発信したいと考えています。よりよい広報紙とするために、お気づきの点やご意見をお聞かせください。

(学校教育課：担当)